

# 賀

# 正



嵐山町長 孝光  
佐久間

## 明けまして

## おめでとう

## ございます

清々しいお気持ちとともに令和八年、末広りの新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年からの給与の上昇を上回る物価高が続く中、日々の暮らしにも厳しさを感じられる方も多いことと思います。今、国を挙げてその対策に取り組んでいるところではありますが、町としてもしっかりと焦点を絞る中で、必要な人に、少しでも手を差し伸べるができますよう努力してまいります。昨年最後の議会におきましても、ある議員さんから、「町も苦しい状況ではあるうけれども、適材適所、効率を高め、この難局を弾みとして乗り越えていただきたい」との、大変心強い叱咤激励をいただきました。しっかりと念頭に置きながら、町政進展に心がけてまいります。

我々は皆、幸せな人生を歩むために生を受けたものと思います。その

とおりに、いつも朗らかで、笑顔が絶えない明るい方もいれば、口を開けば人の批判、社会に対する不平不満ばかりを述べておられる方もいる。誰も見ていなくても、誰からも頼まれなくても、地道にコツコツと隣近所のため、地域のために汗を流されている方もおられれば、逆に、自分のしていることをたてに、相手に何かを求める方もいる。私は、状況によつては自分の言葉に責任をもつて発言すること、時には苦言を呈することは必要なことであり、そのこと自体を否定するものではありません。ただ、同じような日々を過ごす中で、ある人は、いつも穏やかで日々楽しそうで、ある人は、いつも目を三角にして不満そうに見える

る。この違いは、どこから来るのだろうかと考えることがあります。

先日、慶応義塾大学教授前野隆司先生のコラムを目にしました。先生は、「幸せには4つの因子がある。」

①やってみよう因子 やりがいや目標を持ち、主体性が高い人は幸せ  
②ありがとう因子 つながりや感謝、利他性や思いやりを持つ人は幸せ  
③なんとかなる因子 前向きかつ楽観的で、なんとかなるというポジティブな人は幸せ  
④ありのまま因子 自分と他者を比べ過ぎず、しっかりと自分らしさを持つている人は幸せ」と述べられておりました。ひとつひとつの因子に大変共感を覚え、納得させられる視点だと感じました。幸せを実感できる日々を過ごすにあたり、お一人でもこれらの視点がお役に立ちますことを願っております。

結びに、本年も町民の皆さまが、当たり前前の一日一日に感謝できる幸せな一年を過ごされますことを心よりお祈り申し上げます。



嵐山町議会 議長  
義勝 守 状

## 年頭のご挨拶

新春の候、町民の皆さまには、希望に満ちた新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は町議会の活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返れば、私たちの暮らしに直結する課題が数多く浮き彫りになった一年でした。前年の能登半島地震からの復旧・復興が続くなか、異常気象による豪雨や猛暑など自然災害への備えが求められる一方、物価高が家計を直撃し、多くの方が生活の厳しさを実感されたことと思います。特に米の価格高騰は、日々の食卓にまで影響を及ぼし、地

域の経済や消費行動にも大きな変化をもたらしました。こうした社会情勢の中で、地域で支え合い、知恵を出し合って乗り越えていくことの重要性を改めて痛感いたしました。

本町におきましても、将来を見据えたまちづくりが着実に進められています。特に令和11年4月開校を目指している小中学校の再編事業は、少子化の進行に対応しつつ、子どもたちにより良い教育環境を提供し、地域の教育力を高めるための重要な取り組みです。新しい学校づくりは、単に施設を統合するものではなく、子どもたちが互いに学び合い、地域の皆さまと共に成長できる教育

の場をつくるものです。町議会としても、保護者や地域の声に耳を傾けながら、教育の充実と地域の活性化に力を尽くしてまいります。

また、防災・減災への取り組みは、町民の生命と財産を守るうえで最も基本となる課題です。近年の災害の教訓を踏まえ、行政と議会が連携し、実効性のある防災体制づくりを推進してまいります。

本年はより一層「開かれた議会」を目指し、議員が地域に向き、町民の皆さまと直接意見を交わす「地域意見交換会」を昨年に引き続き開催してまいります。現場の声を丁寧に伺い、議会活動に反映させることで、議会への信頼性を高め、町民の皆さまと共に歩む議会運営を実現していきたいと考えています。

本年が、町民の皆さまにとって健康で笑顔あふれる実り多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。